

少年センターだより

(湖南省少年センター・あすくる湖南)

【住所】 湖南省石部中央一丁目1番1号 市役所西庁舎
 【悩み相談】 Tel 77-7053 Fax 77-7059
 【e-mail】 ask-7053@city.konan.shiga.jp



(西庁舎 別館2階)

子どもを自立させること

子育ての最大のテーマは「子どもを自立させること」であります。子どもの成長につれて、親の思うようには子どもはなかなか成長しません。小さい時に、自分の子どもに抱いた夢は、大きくなるにつれてだんだん薄れ、諦めが変わっていくことの方が多いように思われます。子どもはやがて親から離れ、自分自らの道を歩いていきます。その時、自立してしっかりとした道を歩いていけるように育てておくことが親の役目だと思います。

ここで、臨床心理士の金盛浦子の子育てのポイントについて紹介します。まず、自立ということには3つの要素があるということです。

一つは「生活の自立」で、基本的な生活習慣をつけること。その上で炊事、洗濯、掃除、料理、裁縫などができるようにすること。次に「精神の自立」で、自分で物事を判断できる自主独立の気概を身につけること。そして「経済の自立」で、自分でお金を稼ぐ力をつけること、子どもの頃は小遣いの管理がきちんとできるようになることで、この3つの要素が大切だと述べられています。私も自分自身を振り返ってみた時、この3つの要素に疑問符がつくなあーと思うところもあります。

この3つの自立の力を培っていくためには、その前提となる大切なポイントがあります。それは、自分をコントロールできる力「自律心」を育てることです。そのためには、子どもとのコミュニケーションを重ねて、何事も納得できるようになることを通して、自分の感情や欲求を抑える経験を積ませることです。

EQというのがあります。「感情指数」とか「心の知能指数」とか言われるもので、心の力の指数です。IQは知能指数といわれるものですが、自立を考えると、IQよりもEQを伸ばすことの方が大切です。親自身がEQを高め、子どもに温かく接し、誉めて認めること、そして成長につれて離れつつ保護することが大切です。

思春期になってくると、子どもの自立が完成します。自立には「安全基地」が必要とされています。安心できる「安全基地」それは家庭であり親であります。中学生は親から離れようとしますが、自分を守ってくれる安全基地がないと、不安で自立することができないのです。そして、もう一つ大事なことは、やる気を促すことです。その方法は、頑張ったプロセスを重視し認めることです。結果ではなく、頑張った努力、プロセスを認め誉めることが大切だと述べておられます。

子どもの自立をめざして、明るくおおらかに子どもを育てていきたいものです。

湖南省教育長 奥村容久

仕事始め・・・1月4日の支援日誌より

その1…Aからの年賀状。

A・・・昨年、少年院に送致。現在は、少年院で社会復帰のために訓練に励んでいる。
センターから定期的に面会に行き、手紙などで社会復帰の支援をしている少年。

センターから送った『年賀状のお礼』と『今年の抱負』がしっかりと書いてありました。
1月末に面会に行きました。緑のバッチに進級し、来月危険物の資格試験に挑戦します。

その2…Bからの電話。

B・・・10月にハローワークに連れて行ったが年齢が15歳ということでなかなか仕事が見つからず、ようやく12月に面接して下さる企業があり、年末から仕事を始めた少年。

B：「先生、明日から仕事ははじまるけど何時に行けばいいのか、
わからないので〇〇（工場長）さんに聞いてほしい。」

職員：「・・・今日は会社も閉まっているので連絡がつかないし、
とにかくいつもより30分早く行ってあいさつしたらよい！
それで怒られたらいっしょにあやまってやるから・・・！」

B：「わかった。ありがとう」

その後、1月中旬に仕事がしんどくなり退社（約1ヶ月）。
最後に、お世話になった工場長さんにお礼と謝罪をしました。
仕事は続きませんでした、
『社会の厳しさ』と『自分の甘さ』を学びました。



その3…Cからの電話。

C・・・年末までの期間限定（2ヶ月間）で、市内の支援企業での仕事をやりとげて退職。
次の仕事探しをしている少年。

C：「あけましておめでとう！
（昨年）は原付の免許も取れたし、バイクも買えた。
紹介してもらった仕事を12月30日で終わった。（休まずにやり遂げた）
・・・母を助けるためにも、次の仕事を見つけない。」

その後、知り合いの紹介で仕事が見つかりがんでいます。
自分のためだけでなく甘えも出るが、大切な人のためなら辛抱ができるのかもしれない。

**「あすくる」は、
明るい「明日がくる」ように
「学校(a school)」のような応援団です。**

若者のすぐそこに…薬物が！

今年度も青少年を取り巻く様々な事件に驚くことがたくさんありました。個人・集団（グループなど）での信じられないような事件の数々・・・。

そんな中、昨年（2018年）の10月22日の報道にこんな見出しの記事がありました。

3分の2が「大麻が手に入る」前年の2倍に！ 関西私立4大学（関関同立）の新入生に実施した薬物に関する意識調査（約2万人から回収）

この調査は、全国の大学で学生の大麻所持が相次いだ一昨年からはじまりました。2回目の昨年「大麻が手に入る」と答えた学生が前年の2倍になりました。（3分の1でも驚きですが！）

大麻の入手に関する質問では、

「少々苦労するが手に入る」・・・40.1%

「簡単に手に入る」・・・24.6%

* 「大麻の使用を直接見たことがある（テレビなどは除く）」

・・・4.9%（20人に1人）

この調査は、大学新入生が対象ですので、

実際に高校生に薬物が迫っているのです。

その理由…栽培等による「大量生産（安価）」・インターネット等による「水面下の販売ルート（拡大）」

甘い声かけ

「覚せい剤は、ゼツタイにダメだが、大麻はタバコみたいなものだから・・・

覚せい剤は、『高価』だが、大麻はそれほど高くないから・・・

それに、大麻なんてみんなやっているから・・・」

* 「ダメ」という共感から忍び寄る！・・・大麻からはじまり「覚せい剤」へ

* 初回お試し価格で忍び寄る！・・・1000円程度の価格から「数十万」へ

ダメ。ゼツタイ。薬物乱用！

【薬物の恐ろしさ】

『依存性』（なかなか止められないこと）

『耐性』（効き目がなくなり、より強い刺激を求めること）

そして、『幻覚症状』など、

放っておくと取り返しがつかなくなるのです。



自分が薬物のことで『困ったとき』

薬物のつながりに『気づいたとき』

・・・かかえ込まずに相談して下さい。

『連携の広がり』と『信頼関係の深まり』

少年センターも6年目を迎え、相談・支援の件数が年々増加、今年も昨年の倍以上のペースで相談・支援を実施しています。これは、継続的な取り組みを行うことで中学校・高校等との連携が広がったこと、また相談に来た少年・保護者との信頼関係が深まったことでクチコミ相談が増加しています。

困ったことがあれば、いっしょに考えますので、お気軽に相談して下さい。

相談・支援件数（女子内数）・・・・・・・・・・1810件（634件）

（2010年 4月～12月末現在）

1. 相談/支援方法

来所	電話	訪問	メール
259(95)	1217(477)	271(62)	63(0)

2. 相談/支援者

本人	家族	学校	職場	警察	他機関	その他
739 (312)	369 (184)	261 (66)	37 (3)	48 (12)	339 (52)	17 (5)

3. 相談/支援内容

盗難 窃盗	暴力行為 傷害暴行	校内 暴力	家庭内 暴力	たかり 恐喝	薬物乱用	飲酒
196	70	1	10	0	0	2
喫煙	家出	無断外泊	深夜徘徊	金銭乱費 金品持出	道交法違	怠学
28	25	0	1	0	4	1
不登校	学校学業	就職仕事	家庭	しつけ 生活	交友	性
0	480	650	95	28	110	0
発達障害 心の病	性格	健康身体	いじめ	虐待	有害環境	その他
65	0	0	0	3	0	41

4. 街頭補導活動

補導回数	従事者延べ人数	補導少年数（女子内数）
104	425	374(130)

相談ごとや悩みごとはお気軽に

湖南省少年センター（あすくる湖南）

Tel 77-7053 Fax 77-7059

e-mail ask-7053@city.konan.shiga.jp

〒520-3195

湖南省石部中央一丁目1番1号 西庁舎別棟2階

